



▲毎年、マリモ祭り行進で正名像の前で弓の舞を奉納するコタンの人々

前田正名年表～七転び、八起きの道～

1850 (嘉永3)	1歳	鹿児島県(薩摩藩)に、漢方医の6男として生まれる。
1866 (慶応2)	17	坂本竜馬の命を受け、薩長連合調停の書簡を届ける密使に。
1867 (慶応3)	18	長崎で蘭学を学ぶ。兄献吉らと和訳英和辞典『薩摩辞書』を出版。
1869 (明治2)	20	明治維新第1号留学生の指名を受け、渡仏。
1870 (明治3)	21	普仏戦争でパリ籠城。
1877 (明治10)	28	七年ぶりに帰国するも、パリ万国博覧会の日本事務館長で再び渡仏。
1878 (明治11)	29	パリ万博開催。自作の戯曲『日本美談』を上演。
1879 (明治12)	30	帰国後『直接貿易意見一斑』提出。
1881 (明治14)	32	物流調査のため全国各地へ出張。石原イチ(大久保利通の姪)と結婚。産業経済調査のため欧州に長期出張。
1884 (明治17)	35	正金銀行、勧業銀行の設立に尽力。『興業意見』29巻編集出版。長女誕生。
1885 (明治18)	36	政策を巡り対立。農商務省を非職される。
1886 (明治19)	37	神戸オリーブ園、播州ブドウ園経営を受託。長男誕生。
1887 (明治20)	38	次男正次誕生。
1888 (明治21)	39	山県有朋内相が山梨県知事に任命。「蓑笠知事」として話題。政府から払い下げをうけて「葡萄園」と「オリーブ園」を所有。「一步園」のはじまり。
1889 (明治22)	40	農商務省に復帰。東京農林学校長歴任。ペルー銀山開発に関係。
1890 (明治23)	41	農商務次官に就任するも、陸奥宗光農商務相と対立。ペルー銀山開発失敗。貴族院勅撰議員に就任。
1891 (明治24)	42	福島県での開墾事業失敗。官職を辞す。
1892 (明治25)	43	全国行脚開始。茶業団体、農商工団体組織化のため全国遊説。長女急死。
1893 (明治26)	44	日本貿易協会成立、会頭就任。初めて北海道へ遊説。北海道の産業振興の可能性を実感。大日本農会幹事長就任。
1894 (明治27)	45	日本茶業会、五二会、日本商工会、日本燐寸義会、九州石炭同盟会、日本蚕糸会等それぞれ発足し要職に就任。「前田得意の時代」といわれる。1896(明治29)まで精力的に産業振興活動を全国展開。
1897 (明治30)	48	第一線からの引退を表明。福沢諭吉が前田を痛烈に批判。移民問題、関税問題の解決で米国、カナダ訪問。欧州視察。帰国後全国遊説。
1898 (明治31)	49	開田事業計画に着手。産業運動指導者の地位から引退。
1900 (明治33)	51	前田製紙合名会社を設立。開田事業に様々な障害。
1902 (明治35)	53	経営に行き詰まり、富士製紙が資本参加、北海紙料株式会社へ。開田事業の用水路破損等で経営窮地。
1906 (明治39)	57	前田正名が阿寒湖畔山林5千畝の払下げを受け、開発を始める。前田一步園を立ち上げる。
1908 (明治41)	59	前田一步園の経営を本格化する。全国五二大会で会頭に就任。
1910 (明治43)	61	「北海道国有未開発処分法」により貸し付けを受けていた阿寒の土地の無償付与を受ける。地方産業振興運動再開の決意表明。欧州視察。
1912 (明治45)	63	徹別教育所附属湖畔特別教授場(後の阿寒湖小)が前田一步園の寄付により開設される。
1913 (大正2)	64	地方産業振興運動再開を呼びかける。
1917 (大正6)	68	欧州視察。
1919 (大正8)	70	全国各地を行脚。欧州視察(ベルギー「万国商會会議」出席)
1920 (大正9)	71	前田種苗会社設立準備。
1921 (大正10)	72	長男正一病気により行脚を中止し、見舞うも自身も高熱発し、チフスにより九州で死去。男爵の称号、正三位勲二等を授与。



▲原生の森のたたずまいを残す「光の森」のシンボルツリー、樹齢800年のカツラ。



▲2011年宝塚正月公演「Samurai」は、正名のパリ留学時の活躍を描いたもの。タカラジェンヌ出身の光子(三代目)と正名は舞台で共演。(同パンフレットより)